

校長から宗高・宗中のみなさんへⅡ ③

令和2年6月19日（金）

「忘れてはいけない日」

今日6月19日はどんな日か、みなさん知っていますか？

今から75年前（4分の3世紀前になります！）1945（昭和20）年の今日、6月19日は、当時の福岡市の3分の1が罹災した「福岡大空襲」の日です。夜11時11分から0時53分までの約2時間、アメリカ軍の爆撃機B29、239機による空襲で南北は博多湾から大濠公園、キャナルシティ辺りまで、東西は六本松から福岡空港辺りまでの範囲が一面焼け野原になりました。現在の天神パルコ付近から博多湾方向を臨むと、建物はすべて焼失し、海しか見えなかったそうです。この約2時間に投下された焼夷弾（爆弾ではなく火事を引き起こす兵器）は1,358トンにのぼり、この空襲によって1,146人も死者・行方不明者が出ています。

また、この空襲では、現在の博多座付近にあった当時の第15銀行福岡支店の地下室に避難していた62人が熱死するという痛ましい出来事も起こっています。

6月23日は、1945（昭和20）年3月23日から3ヶ月にわたった第二次世界大戦中最大の激戦地となった「沖縄戦」終結の日（牛島司令官自決による日本軍の組織的戦闘終結の日）です。この「沖縄戦」でアメリカ軍は、沖縄に40,000発の砲弾と1,600機の航空機を投入し、日米両軍で208,331人の死者・行方不明者が出ています。そのうち日本側の死者・行方不明者は188,136人にのぼり、みなさんもよく知っている「ひめゆり部隊」のような民間人（非戦闘員）94,000人も犠牲となっています。当時の日本の国土の中で、これほど多くの民間人までもが犠牲になった激戦地は他にありません。この沖縄戦は、硫黄島の戦いと同じように、本土決戦までの時間を稼ぐための持久戦でもありました。

戦後沖縄は、1972年5月15日の本土復帰まで27年間にわたってアメリカの施政権下であり、「日本の中の外国」という状況にありました。みなさんが「現代社会」で学習したように、本土復帰後の今もなお、日本の国土面積の0.6%にすぎない沖縄に、日本国内にある在日アメリカ軍

の基地等の約70%が存在しています。

6月の「福岡大空襲」の日、「沖縄戦」終結の日、広島に原子爆弾が投下された8月6日、同じく長崎に投下された8月9日、そしてポツダム宣言（日本の無条件降伏）受諾による8月15日の終戦の日とともに、私たち日本人が決して忘れてはならない日として記憶されなければなりません。

今日、「平和」であることは、私たちにとって空気のように！？当たり前のことになっているのかもしれませんが。しかし、今私たちが享受しているこの「平和」は、第二次世界大戦による約300万人もの日本人の犠牲の上であり、その反省に立った先人の不断の努力によるものであることを決して忘れてはならないと思います。

「平和」にイデオロギーは関係ありません！「平和」は、イデオロギー等の違いを超えた普遍的な価値であります。イデオロギー等に関係なく、すべての人にとって人間らしく幸せに生きるための大前提は「平和」であること以外にはありません。幸いにしてわが国は、4分の3世紀、75年の長きにわたって「平和」な世の中を享受してきました。この「平和」をこれからも大切に守っていくことは、現代に生きる私たち一人一人に課せられた大きな責任と義務であると思います。そのためには「歴史から学ぶ」ことが非常に重要です。歴史は暗記するためのものでもなく、ただ物知りになるためのものでもありません。先人が歴史書に「大鏡」や「増鏡」のように「〇鏡」と名付けたように、歴史は今を映す「鏡」であるのです。歴史を学ぶことは、歴史を学ぶことによって先人たちの人間の営みを知り、そこから今を生きる私たちの生き方やあり方、進むべき道を考えることであるのです。

戦後75年目の今年、そして「福岡大空襲」から75年目の今日、今日のわが国の「平和」の原点がそこにあることに改めて思いを馳せたいと思います。

校長 深瀬 信也